

## 第 61 回電磁界理論研究専門委員会（合同委員会議事録）

日時：平成 17 年 3 月 21 日 17:30-19:10

場所：大阪大学（豊中キャンパス）共通教育本館（イ号館）イ 23 講義室

出席者：安藤（真）委員長（東工大）<sup>\*\*</sup>，早川委員長（電通大）<sup>\*\*</sup>，  
小柴元委員長（北大）<sup>\*\*</sup>，立居場元委員長（九大）<sup>\*\*</sup>，下代委員（阪府大）<sup>\*</sup>，  
小見山委員（阪電通大）<sup>\*</sup>，後藤委員（豊橋技科大）<sup>\*</sup>，佐藤委員<sup>\*\*</sup>（京大），  
白井委員（中大）<sup>\*</sup>，田中（雅）委員（岐阜大）<sup>\*</sup>，西本委員（熊本大）<sup>\*</sup>，  
藤崎委員（九大）<sup>\*</sup>，丸田委員（阪大）<sup>\*</sup>，横田委員（宮崎大）<sup>\*</sup>，吉田委員（北大）<sup>\*</sup>，  
廣瀬幹事（東大）<sup>\*</sup>，山崎幹事（日大）<sup>\*\*</sup>，松本幹事（阪大）<sup>\*\*</sup>，  
安藤（芳）幹事補佐（電通大）<sup>\*\*</sup>，稲沢幹事補佐（三菱電機）<sup>\*</sup>

\*：電子情報通信学会，\*\*：電気学会

配付資料：

電子情報通信学会 電磁界理論研究専門委員会

資料 No. 61-1 第 60 回電磁界理論専門委員会議事録

資料 No. 61-2 電磁界理論研究専門委員会委員推薦（案）

資料 No. 61-3 2005 年ソサイエティ大会（北大）課題提案

電気学会 電磁界理論技術委員会

資料 No.16-ETC3-0 平成 16 年度第 3 回電磁界理論技術委員会議題

資料 No.16-ETC3-1 平成 16 年度第 2 回電磁界理論技術委員会議事録

資料 No.16-ETC3-2 第 62 回電気学会 A 部門研究調査運営委員会報告

資料 No.16-ETC3-3 第 63 回電気学会 A 部門研究調査運営委員会報告

資料 No.16-ETC3-4 調査専門委員会 報告・議題事項

資料 No.16-ETC3-5 計算電磁気学調査専門委員会「第 2 回 計算電磁気学の基礎セミナー」案内

資料 No.16-ETC3-6 ナノメートル電磁波・X 線電磁界技術調査専門委員会 講演会案内

資料 No.16-ETC3-7 自然電磁気現象解明と電磁界解析調査専門委員会

4th International Workshop on Seismo Electromagnetics: Call for papers

電気学会 電磁界理論技術委員会 議事：

1. 平成 16 年度第 2 回電磁界理論技術委員会議事録の承認について（早川委員長）
2. 第 62,63 回電気学会 A 部門研究調査運営委員会報告（早川委員長）
  - ・ 電気学会 A 部門研究調査運営委員会幹事として、電磁界理論より安藤幹事補佐が担当することとなった。
  - ・ 卓越技術 DB に EMT からデータベース化する情報を提出する必要がある。
  - ・ 平成 18 年より新たに調査専門委員会ができるが、委員の会員比率 80% を満たすよう要請された。
  - ・ 現在活動している 3 つの調査専門委員会の他に、2 つ新設が予定されている。
  - ・ 全国大会、部門大会ではテーマ付きセッションの規格が委員に要請された。
  - ・ EMT 研企画技術委員会として中期ビジョンの活動方針をまとめる必要があることが報告された。
3. 各調査専門委員会報告と議論（早川委員長）
4. 電磁界理論技術委員会委員長、幹事団の交替について（早川委員長）

- ・ 次期委員長は佐藤委員、次期幹事の一人は安藤（芳）幹事補佐が就任することが報告された
- ・ 委員長の任期を3年から2年と短縮することを提案したが、反対意見が多く了承されていない。

#### 電子情報通信学会 電磁界理論研究専門委員会議事：

##### 5．安藤委員長冒頭挨拶

- ・ 今回は臨時の委員会であるが、従来年2回では十分なコミュニケーションをとることができず、今後は3月の総合大会時の委員会を定例化したい。
- ・ 次年度の運営体制を合同委員会で審議した後に、ほぼ同時期に開催されるソサイエティ運営委員会で報告する。

##### 6．前回（第60回）電磁界理論専門委員会議事録承認

前回の議事録を確認しつつ現況報告がなされた。

##### 6．1．電子情報通信学会2005年総合大会のシンポジウム課題について（廣瀬幹事）

- ・ 多数の投稿があり盛況であった。今回の結果も英文論文誌の特集号に投稿して頂きたい。
- 6．2．KJJC-AP/EMC/EMT04（日韓合同研究会）について（安藤委員長、廣瀬幹事）
  - ・ 次回の日本側の幹事はEMTの順番であるが、横浜国大の新井先生が次回もきっかけまでは担当可能との申し出があった。
  - ・ 国際会議の数が多く整理統合が必要な時期にきている。先に国内で議論を詰めた後、今後の方向性も含めて提案していく必要がある。

##### 6．3．2010年のURSI Commission B EMT-Symposium 招致活動について（安藤委員長）

- ・ 2005年10月にインドで開催されるURSIの総会で投票が行われる見込み。現在45カ国にRFPが出されており、間もなく締め切られる。2010年に日本での開催を提案予定。
- ・ 2007年はアレキサンドリアの予定であるが、エジプトの情勢によっては2007年に日本での開催を要請される可能性もある。

##### 6．4．2005 IEEE-ACESとの共催について（安藤委員長）

- ・ MTT-Sも共催に加わった。2005年4月3日からハワイで開催。
- ・ 約250編の投稿があり、日本からは30編弱。

##### 6．5．2005年電子情報通信学会英文論文誌特集号(Special Issue)について（安藤委員長、廣瀬幹事）

- ・ 3月19日の時点で9件の投稿あり。
- ・ 当初の投稿締切日の3月19日が全国大会と時期的に重なっていたため、3月28日に延長。平成17年12月に発行予定。
- ・ EMTシンポジウム関連の特集号を毎年電子情報通信学会から出版することを前委員会で決定。電気学会からはテーマを絞った形で特集号を出す。

##### 6．6．第2回エレクトロソサイエティ運営委員会報告について（安藤委員長）

- ・ その後、第3回、第4、第5回の運営委員会が開催された。

##### 6．7．電磁界理論研究会HPデザインリニューアルについて（稲沢幹事補佐）

- ・ 2月末に仮納品後、委員長、幹事で審議し再修正をデザイン会社に依頼中。

##### 6．8．平成16年度電磁界理論専門委員会及び研究会開催計画(2005年1月開催地が未定)について（安藤委員長）

- ・ 2005年1月は佐賀大学にて開催した。多数の投稿があり盛況であった。長期計画を練るときには全国大会や研究会など総合的に顧慮して開催場所を決める必要がある。

- 6.9.平成17年度電磁界理論研究会開催計画について
- ・7月の光・電波ワークショップ(長岡技術科学大学)までは決定しているが、その後は未定。#1
- 6.10.電子情報通信学会2005年ソサイエティ大会のシンポジウムの課題について(安藤委員長)
- ・「幾何光学、高周波電磁界の基礎に関する新しい知見と工学的応用」としてエレゾに提案済み
  - ・内容としては橋本先生のエッジ電流と指向性、本郷先生のエッジコンデション関連、石原先生のUTDの破綻と統一的修正法、安藤先生の幾何光学の線積分表現、古神先生のウィスパリングギャラリーモードを用いた誘電体定数測定、白井先生の光線近似による屋内伝播シミュレーションなど。
- 6.11.平成17年度Fellow(IEICE)の推薦について(安藤委員長)
- ・電磁界理論研究会のFellowの数は他研究会と比べて少ない。今回は専門委員会に与えられている人数枠を越えて提案した。
- 6.12.次期専門委員会委員長,幹事,幹事補佐の後任候補について
- ・後の議題で議論。議事7参照。
- 6.13.今後の特集号の発行について(安藤委員長)
- ・電磁界理論シンポジウムを中心とした特集号を毎年,電子情報通信学会英文誌の特集号から発行し、電気学会からはテーマを絞って特集号を発行する。調査専門委員会を積極的に活用し,特集号に結びつけていく。
- 6.14.研究専門委員会の一般公開について(安藤委員長)
- ・今回は弁当手配の都合上、残念ながら一般公開にできなかったが、今後は可能な限り一般公開とするよう努めていく。
- 6.15.技術共催について(安藤委員長)
- ・運営協力、会議参加も含め積極的な関与が求められる場合には、5名程度の発起人を立てて技術共催を提案してはどうか。
  - ・9月の委員会で提案したが特別な意見は頂いていない。5月の委員会で審議する。
- 6.16.若手研究者の表彰、ネットワークの強化について(安藤委員長)
- ・今回の総合大会では研究会枠を越えた懇親会が開催される。EMTでもメーリングリストで案内済み。
  - ・電磁界理論研究会は特に若手の活躍が期待される分野である。
  - ・次世代を担う若手が5人程度は見える形を実現したい。運営にも目を配ることのできる若手を把握する。
  - ・35歳以下の枠を研究専門委員会に設けてはどうか?5月の専門委員会に向けてメール審議などで議論していく。#2
- 6.17.前回アクションアイテムの確認
- ・研究会、シンポジウム開催場所の決定 未実施#1
  - ・副委員長ポスト新設に関するご意見 特に意見がなく、新設の方向で調整する。議事7参照。
  - ・平成17年度Fellow(IEICE)の推薦 今回は委員会の枠を越えて積極的に提案した。議事6.11参照。
  - ・技術共催ルール案 メール提案 次回5月の定例委員会で決定。議事6.15参照。
  - ・若手研究者の表彰、ネットワークの強化執行部案のメール提案 ボランティアベースで進んでいる。議事6.16参照。
  - ・研究専門委員会委員の推薦 委員交代の推薦を頂いている。議事8参照。
- 7.平成17年度電磁界理論研究専門委員会運営体制について(安藤委員長)

- ・ 他の専門委員会の副委員長ポストについて調査。投票権などの利があるため、引継ぎをうまくするため、などの理由で副委員長が設けられている。次期委員長に選ばれている人が副委員長になるケース、委員長が退任後に引き継ぎのため副委員長になるケースもある。
  - ・ 委員会に副委員長のポストを一つ設けることを審議し承認された。
  - ・ 来期の副委員長は安藤現委員長が就任することが提案され承認された。
  - ・ 次期委員長は両学会の業務に通じている山崎幹事が就任することを提案され承認された。
  - ・ 今回は現委員長が次期副委員長となるが、今後の副委員長の選任のあり方を決めるものではない。
  - ・ 副委員長だけでなく委員長、幹事なども含めた執行部の人選、任期などの運営方法について、今後メールで議論を行い、5月の研究専門委員会で審議する#3。基本的ルール確立が必要であること、電気学会の委員長の任期が3年であることも視野に入れる必要があることが指摘された。
  - ・ 稲沢幹事補佐は留任。
  - ・ 5月より英文論文誌編集委員は佐藤委員、白井委員から下代委員、廣瀬幹事に交替。
8. 電磁界理論研究専門委員会委員推薦(案)(資料 No. 61-2)(安藤委員長)
- ・ 吉田委員、野口委員の退任にあたり、後任委員として北見工業大学の平山先生、慶應義塾大学の木下先生が推薦され承認された。
  - ・ 電磁界理論研究専門委員会の人数は活性化する条件のもと自由に決めることができる。
9. 2005年英文論文誌特集号受付状況について
- ・ 議事6.5参照。
10. 2005年ソサイエティ大会(北大)課題提案(資料 No. 61-3)
- ・ 議事6.10参照。
11. KJJC-AP/EMC/EMT04(日韓合同研究会)終了報告について
- ・ 議事6.2参照。
12. 国際状況について(安藤委員長)
- ・ IEEE AP-S Adcomメンバーの安藤委員長よりAPSの状況説明
  - ・ 今年は1800件以上の投稿があり、論文の質の問題や、全てオーラルとするとパラレルセッションが多すぎることなどから激論が交わされた。ソサイエティの財政は出版物による収入が減ったいま、国際会議の収入で成り立っている。今年は査読を厳しくするのではなく、700件をポスターセッションとすることに決定した。ポスターにするかどうかは論文の質ではなくトピックで分けた。今後、パラレルセッションは15を越えないようにルール化もなされた。
  - ・ 来年以降は会議を2回に分け、1回はAsia Pacificで開催する可能性もある。ISAPと競合する可能性あり。
  - ・ EMTの研究内容によっては通信ソサイエティに近いこともある。海外と付き合う上ではソサイエティ間の壁は薄い方がよい。
  - ・ ヨーロッパでは教育・研究で各国間の壁がなくなりつつある。2010年には様々な分野で、異国間への進学が容易になる方向。これらのアメリカ、ヨーロッパ、アジアの3極構造を意識しておくべきである。

13. 今年の EMT シンポジウム開催場所について（佐藤委員）

- ・ 11/16（水）～11/18（金）に北関東か東北での開催を計画する。英文論文誌は 2007 年 1 月頃に発行が可能である。

次回の研究専門委員会は 5 / 27（金）の予定

アクションアイテム

- ・ # 1：平成 17 年度の研究会開催計画の策定
- ・ # 2：研究専門委員会に 35 歳以下の枠を設けるなど若手参画の仕組みを検討。メールで審議する。
- ・ # 3：執行部の人選、任期などの運営方法についてメールで審議する。

以上